

<本年度クラブ会長方針>

No.1539

**広げようローターの想い、職場に社会に**

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
 会長 大原敏正 事務局 名古屋市中区栄4-7-10 栄第8ロイヤルビル6F  
 幹事 鬼頭茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008  
 URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

**ローターは機会の扉を開く**

<2020-21年度 R.I.テーマ>

R.I.会長 ホルガー・クナーク

**第1811回例会**

青少年奉仕月間

令和3年5月27日(木)

新人会員卓話

(オンライン)例会

・Zoomミーティング

会員53名

出席計算数

53名中53名出席

出席率100%

前々回出席率100%

**例会プログラム(リモート)**

★渡辺次年度青少年交換委員長

・青少年交換学生募集案内

★新入会員卓話

**ローターソング**

「手に手つないで」(歌唱なし)

**会長挨拶**

大原 敏正

皆さんこんにちは。愛知県の「緊急事態宣言」が長引かざるにつれて、今季は全てがリモート例会となり、そんな雰囲気です。お変わりはありませんか？

本日は新入会員卓話です。岡部 快雅さん、池田修人さん、宜しくお願いします。

本日の歯の話は「お歯黒」です。若手の会員の方は、映画などで見られた方もおられるかと思いますが、最近の映画やテレビ番組では時代考証がしっかりしていると言われる歴史物でも、お歯黒の登場人物はまず見なくなりました。多分60歳以上の方は実際に見られた方もおられるかも知れません。

私の母方の祖母は武士の出で、鬘を結ってお歯黒をしていました。昭和30年代初めでした。その頃祖母の家に預けられると、祖母がよく縁側でお歯黒をしているのを見ました。子供心に非常に恐怖を覚えて、祖母の家にはあまり行きたくありませんでした。

歴史的には、紀元前3000年頃の古墳時代の埴輪や人骨にはお歯黒がされているものがありますので、かなり古くからの風習なのでしょう。北方から伝わったとも、南方から伝わったとも言われますが、東南アジアでは最近までその風習があり、入れ歯用の人工の歯でお歯黒の黒い歯を日本で作って輸出していました。日本では室町時代に公家に広まりました。これは公家の官位の象徴となり、官位5位以上にだけ許され、6位以下は「白歯」と言ってお歯黒は許されませんでした。公家がお歯黒を始めたのは、鳥羽上皇が大変に歯が悪く、臣下の者にも会わず政務が滞った為、臣下のものが皆歯を黒く染めて「私たちも皆歯が悪いのです」と言ってお上皇にお心を開いて頂き、お側に行くことが出来るようになり、公家の男子にお歯黒が命じられたと言われています。

その後武士階級が公家を真似て、男性がお歯黒をするようになり、お歯黒が命じられたと言われています。しかし江戸時代には男性では廃れて、むしろ女性で広く普及して既婚の女性の印とされたり、

13歳になった11月15日は、「お歯黒染めの日」として祝ったそうです。江戸時代の浮世絵の美人画にお化粧をしている女性がモチーフに多く採られ、「べに」「おしろい」「まゆ墨」とともに「お歯黒染め」が見られます。しかし欧米人が開国を迫って来日し、お歯黒を見てたいへんに驚き、「醜さ」としては比類ないほど抜きん出ている」とアーネスト・サトウなどは書き残しています。明治新政府は諸外国に日本の近代化を認めてもらう為、2度にわたって「お歯黒禁止令」を出しています。

文豪 谷崎潤一郎は「お歯黒は妖艶な美しさがあると述べていますので、広く深く日本人の美意識に浸透していたのでしょう。今でも江戸文化を引き継ぐ、花街の芸者さんの中にはお歯黒をしている方が見えます。しかし私は今でも恐怖心を抱きます。

「今日一日笑顔で過ごしましょうー！」ありがとうございました。

**新入会員卓話**

「大須に生まれて」

岡部 快雅さん

昨年九月より皆様のお仲間に入れて頂きました岡部 快雅と申します。

本日は新入卓話という事で私のこれまでの経歴をお話



させて頂き、私という人間を皆様知って頂ければと思います。

私は大須観音に勤めております。大須観音は真言宗智山派の別格本山です。真言宗智山派という宗派は全国に約2,900の末寺を抱える宗団で総本山に京都の智積院、大本山は千葉の成田山、神奈川の川崎大師、東京多摩の高尾山、そして別格本山に東京日野の高幡不動尊、そして大須観音と本山格を頂いている東海圏唯一の寺院です。

今回のタイトルですが実は事実と異なっておりまして、私は大須で生まれてはおりません。出生は現在のおま市の甚目寺です。私が生まれた当時、大須観音の住職は祖父が務めており、父は甚目寺観音の塔頭寺院である法花院というお寺の住職でした。その後私が3歳の時祖父が他界し、父が大須観音を継ぐためこの街に引っ越して来ました。それからは大須幼稚園、大須小学校、前津中学校と地元で育ちましたので、周りには大須生まれ、大須育ちと言っております。そして高校までは名古屋で過ごし、東京にあります大正大学に進学し、真言宗智山派の僧階を取得しました。

学生時代は学業以外ではアルバイトに精を出し、飲食店で調理、接客を3年間続けておりました。その後お寺に入る前に外の世界を見てみたいという理由で1年間オーストラリアに留学、そして大須



観音に入寺致しました。

大須という町を幼少のころから見て参りましたが、今から30、40年前は驚くほど寂れた町で、通行人も居らず、シャッターの閉まっているお店の多いアーケード内を歩くのが子供心に怖かったのを覚えております。しかしその後アメ横を中心に電気関係の店で栄え、私が高校の頃は古着屋の町として有名になり、そしてアニメ関係、メイド喫茶等が増えオタクの町となりました。現在では様々な店が混在し、商店街の方々の尽力もあり皆様も御存じの通り、全国有数の商店街となりました。

大須観音と大須の町は大変密接に関わっております。お祭りやイベントなども大須観音で行われます。私個人としても商店街の方々と関わりを持たせて頂いておりまして、父の代理として若い頃から色々な会合にも出席し、その中で若輩にも関わらず、毎回壇上にてご挨拶等もさせて頂き、育てて頂いたという気持ちでおります。

お寺の本分というのはご本尊様をお守りし、そこにお参りされるご信者の信仰心に答える事だと思っております。大須観音は開山約700年、今の場所に移動して約400年を数えます。これからも長くお寺を維持するためには特にこの大須という町と共に発展していく必要があると思っております。今はコロナ

禍でインバウンドも激減し商店街も大変であると聞いております。私もこの生まれ育った大須の町が大好きです。これからも名古屋大須ロータリークラブの皆様方と共に、もっともっと全国、世界に大須という名前が響き渡り、そしてそのランドマークとして大須観音を維持できる様、精進して参りますので、今後ともご指導程宜しくお願い致します。

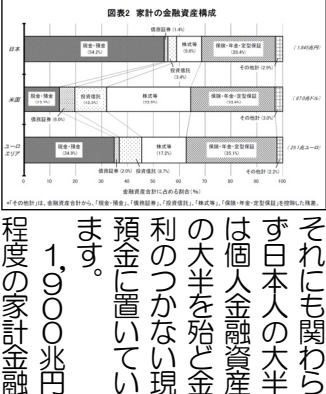
【新入会員卓話】  
「資産運用の重要性」

池田 修人さん

本日は自分の職業を通じて我が国の問題点をお伝えし「資産運用の必要性」についてお話ししたいと思います。



現在の我が国の借金は1,200兆円にも上ります。国民一人当たり約1,000万近い借金があります。GDP対比でも264%と、イタリアの158%や米国の134%など欧米の国と比較しても先進国中でもっとも財政が厳しくなっています。またこの借金は今後も増え続けています。2021年度の国の一般会計支出はおおよそ107兆円、これに対して税金などの収入は63兆円、▲44兆円ほどの足りない分は追加の借金に頼っています。借金の主な原因は少子高齢化に伴う医療費・年金などの社会保障費用の負担増でこの傾向は今後ますます加速していきます。あたりまえですがこれらの借金はいつか返さなくてはならないものです。将来にわたって、消費税、相続税、酒やたばこの税金などが上がる可能性はとても高いのではないのでしょうか？



それにも関わらず日本人の大半は個人金融資産の大半を殆ど金利のつかない現金預金に置いていきます。1,900兆円程度の家計金融資産のうち54%（約1,000兆円）は現金預金になっています。1,000兆円の現金預金がすべて0.01%の定期預金で運用されていたら、もろに金利は国民一人当たり約800円、普通預金の0.001%なら約80円です。この現金預金の持ち主は高齢者のお金持ちの方が大半で、今の若い世代の方々はそもそもお金を貯めること自体ができていません。

大手の企業は退職一時金制度を廃止し、確定拠出年金などの制度を採用しています。企業は年金は社員が自分で運用して、その果実で老後を暮らしてくれと言っているのです。国民主体が将来の税金や社会保障料の負担増に耐えながら、老後を安心して暮らしていくには、株式や債券、それらに分散して投資する投資信託などで運用する自助努力が必要不可欠な時代になっていると思います。

長期の分散投資は資産形成にとっても効果があるようです。日本人が豊かで安心して暮らしていくためには資産運用が必要なのは間違いなさそうです。皆様も研究されてみてはいかがでしょうか？

【地区研修・協議会報告】  
5月13日オンライン例会  
次年度社会奉仕委員長

岡村 隆徳

今年の地区研修・協議会の委員会はオンラインで行われました。まず最初に来年度社会奉仕委員長名目屋中RCCの塩屋和久氏がオンラインにて方針を述べられました。次年度各名後裕力バナーのテーマは「チェンジロータリー 新時代への成長に」サブテーマは「コロナゼロ・カーボンゼロ支援と発表されたことより、社会奉仕委員会もこれに準じていました。

次年度地区社会奉仕は3つのグループで構成されており、社会奉仕、RCC、環境保全のそれぞれを担当委員から説明がありました。重点支援活動の一つとして子供の支援を掲げられ、子ども食堂、こどもの居場所支援、学習支援を提唱されました。また「コロナ禍における医療現場の支援でフェイスマスクの医師会への寄付や環境問題として豊橋市のごみ処理施設支援、また養護施設への支援活動なども述べられました。RCCは地域一般のボランティアの支援活動さらに環境保全はSDGsのテーマ2030年までに達成すべき持続可能な17の開発目標と169のターゲットに言及されました。親睦のロータリーから奉仕のロータリーへと次年度力バナーの指針を反映した内容となっていると感じました。

ちなみに我が名古屋大須RCCはポストコロナを見据えた更なる地域の文化価値認識の向上を目指し活動を予定しています。「コロナ後の復興には日本のブランドینگを更に高める必要がある」と考えています。

公共イメージ向上委員会  
小澤 幸男・横川 誠人  
住田 正夫・山口 正孝  
\*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。